

会議録

- 議事内容 2023年度 8月定例教育委員会
- 日時 令和5年8月24日(木) 13:30~16:00
- 場所 4階会議室4-1
- 出席者 教育長 橋本 浩明
教育委員 河嶋栄里子・藤本真理・養父雄一・石原友紀
学術政策員 陰山 茂
事務局 入江教育管理部長・藤井教育指導部長
松田教育総務課長・市橋いきいき社会創造課長
竹内スポーツ振興課長・教育総務課 澤谷

■ [会議の内容]

- 1 開会あいさつ
・教育長
- 2 前回議事録確認
・全委員一致で承認

3 協議事項

☆今月の議論のテーマ：「学校プール施設の現状と課題」

1. プール施設の現状

- ・学校プールの老朽化が顕著で、漏水プールが増加
- ・平均で築47年が経過（最長：河合小54年、最小：小野中12年）
50年以上経過しているプールは9校（約7割）
小野中を除く全ての学校が法定耐用年数の30年を超えている
- ・小野南中学校は大規模修繕が必要なため、R3から河合中やアルゴで実施
漏水等発生している学校プールは、水道代の増額で対応

2. プール実習の役割

(1) プール実習に至った経緯

島国の特性、川やため池が身近に存在する環境、1950年代における相次ぐ水難事故、「命を守るための力」、諸外国との「溺死率」の比較から教育としてプール実習は必要であると考えられている。

(2) 学校でプール実習をする意義

誰もが「命を守るための力」を身に付けるための教育である。

(3) プール実習の現状

- ・必要時間は、小学校、中学校ともに年10~12時間。

- ・プール実習は、中学2年生（8年生）までは必修科目であるが、中学3年生（9年生）は必修ではない。
- ・学習指導要領では、「適切な水泳場の確保が困難な場合は水泳を取り扱わないことができるが、これらの心得については必ず取り上げる」と定められている。

3. 課題

- ・13校のプールの年間維持管理費2,200万円（1校あたり170万円）
※水道代、薬品代、ろ材入替、ろ過機更新等含む
- ・維持管理費に加え、今後各校の大規模修繕工事費が必要
- ・アルゴ利用経費は、1校あたり50万円（バス運行委託経費）とコストメリットがあり、プール管理の教員の負担軽減につながる。一方、アルゴの受け入れ枠が少なく、プールの水深から低学年の利用が困難。移動時間も課題。
- ・拠点となる新プール（全天候型）を建設する場合は、建設コスト（6億円）ランニングコスト、建設場所の選定などが課題

4. これまでの検討経過

- ・庁内若手グループによるプロジェクトチームが、学校プールの廃止について検討し、最終目標として「アルゴか新しい市営プールを整備して、各学校からバスで移動し、プール授業を実施」と提案している。（令和元年12月）
- ・教育委員会において、小学校及び中学校の校長をメンバーに入れた「学校プールの在り方検討会議」を2回開催し、「①各校存続、②アルゴ利用、③拠点校へ集約、④新プール建設」の4案を検討。
→当面「②アルゴ利用」を中心に進めていくことになった。（令和4年1月）

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：プールの年間維持管理費の中には修繕費も入っているのか。（教育長）

A：修繕費は入っていない。そのため維持管理費とは別に修繕費がかかることになる。（事務局）

Q：アルゴ利用経費は1校当たり50万円ということだが、これはバスの運行経費だけでこの金額なのか。（教育長）

A：その通り。（事務局）

Q：運行経費に加えて、アルゴの使用にかかる料金を払っているのか。（教育長）

A：アルゴの使用に関しては、料金はかかっていない。（事務局）

Q：プールを使用しているだけで、指導を受けているわけではないからか。もし先生方の負担を無くすために、スイミングスクール側で授業をしてもらう場合は、

その費用が発生するのか。また、その費用はどれくらいになるのか。(教育長)

A:費用が発生する。ただ、具体的な金額についてはわからない。(事務局)

Q:アルゴのプールを使うことで、例えば消毒等にかかる費用の請求はないのか。
(教育委員)

A:その通り、通常の維持管理の中でしていただいている。(事務局)

Q:各校のプールを新しく建て替えた場合の経費はどれくらいなのか。(教育長)

A:1校あたり、2億円から3億円くらいになる。(事務局)

Q:50年以上経過しているプールというのは、修繕ではどうにもできず、建て替えなければならないレベルということなのか。(教育委員)

A:仮に修繕できたとしても、大規模修繕となると数千万円ほど費用がかかってしまう。(事務局)

Q:水泳指導は絶対に必要だからこそ協議しているのですよね。(教育委員)

A:中止している市も全国的にはあるが、小野市はプール授業を絶対に行うという方針である。(事務局)

A:必要ないという意見も以前はあった。例えば、地域によっては山奥で水辺に触れない可能性が高いというケースも昔はあったが、これだけ広域に人が動くようになり、水辺のスポーツやレクリエーションが当たり前になってきているので、将来子どもたちがそこに行くことを前提に考えたときには、やはり自分の命を守るという意味で、水泳の授業というのは絶対に必要だ。(事務局)

Q:命を守るというところでいうと、着衣水泳を以前は必ず取り入れていたが、例えばアルゴ等の施設のプールをお借りする場合、着衣水泳は体験できるのか。
(教育委員)

A:以前、教員の研修で、着衣水泳をアルゴで行っていたので、施設側との交渉は必要だが、可能である。プールの水がかなり汚れるので、その辺りは施設側と話し合いながら進めていく必要がある。(事務局)

Q:アルゴの利用を考えたとき、全学校の1年生から9年生までが使用できるという段取りは可能なのか。(教育委員)

A:やはり難しい。現在利用している小野南中学校も、移動に時間がかかってしまうこともあり、半分くらいの時間数しかプールに入れていない状況である。(事務局)

Q:小野市としても授業時間は10時間から12時間は確保するということがよいか。(教育委員)

A:教育課程上の時数でいうと、体育の1つの領域につき大体8時間から10時間でカリキュラムを組んでいる。ある程度の内容をしようと思うと、それくらい

の時数がどうしても必要になる。(事務局)

A:それくらいの時間を設けたいとなると、アルゴ利用のみだと時数の確保が難しくなってくるので、また違う方向性を考えなければいけないということですね。授業時数の確保を絶対に譲れないものにするのであれば、それを視野に入れて検討していくべきだと考える。(教育委員)

Q:拠点校へ集約というのは、例えば小野中学校のプールに他の学校の子どもたちも行くということですね。そうなっても今と同じく6月から7月に水泳授業をすることになるのか。(教育委員)

A:屋外プールになるので、時期的には今と変わらない。(事務局)

Q:屋内プールにすると、費用がかなり上がってしまうのか。(教育委員)

A:その通り。(事務局)

Q:夏がこれほど暑いとなると、屋外ですると危なくなってきましたね。(教育委員)

Q:屋外でするのはプールや川や海に行ったときに、身を守るための練習という意味もあるわけですね。(教育委員)

A:今年の夏も全国的に水難事故がたくさんあったが、そういった知識がなかったり、学習がなされていないのではないかと考える。泳げるということも重要な要素ではあるが、川に行くとかどのような危険性があるのかといったことを学ぶことも、学校の水泳の大切な要素である。(事務局)

Q:現在、学校で水泳授業を行うことに支障があるのは小野南中学校以外でどこがあるのか。(教育長)

A:河合中の漏水が比較的大きい。他にも少し漏水している学校がある。それから下東条小学校のプールの底のシートが半分ほど浮き上がった状態になっている。(事務局)

A:河合小学校は、昨年度漏水の修繕を行ったが、完全に解決はしなかった。さらに修繕するのか、あるいは漏水したまま使用するか、どちらのほうがかかると比較したところ、漏水といっても大きく減っているわけではなかったため、そのまま使用した方が費用的に安いということで、現状そのまま使用している。(事務局)

Q:これから検討していくわけだが、事務局としてはどうすべきと考えているのか。(教育長)

A:アルゴの利用ができる範囲ではアルゴ利用を進めて、いずれは拠点プールか拠点校の利用を進めていかなければいけない状況である。(事務局)

Q:アルゴの利用ということだが、小野南中学校だけでなく河合中学校も利用することはできないのか。(教育長)

A:河合中学校も利用できないかということで現在検討している。大規模校となると難しいが、河合中学校は人数が少ないので利用できるのではないかと考えている。(事務局)

A:去年、河合小学校がアルゴを利用するか議論したが、最終的に学校のプールですることになった大きな要因は、プールの水深が深く、底板で上げて3年生ぐらいまではプールの水を飲んでしまうということ、それから、移動に時間がかかるので、できれば自校のプールで授業を実施したいということだった。また、授業のカリキュラムがなかなか消化できないという話も出てきた。学習指導要領に定められたカリキュラムをやっていく上で、施設に移動する必要があるとなると、履修の計画を立てにくいことが最終的に課題になってくる。これは拠点校にしても、施設と連携してそこに行くにしても、新しくプールを建てて行くにしてもそうだが、移動を含めると半日潰れてしまうので、他の教科の履修に影響してしまうということが難しい問題である。(事務局)

Q:今の話だと、小学校は水深の関係でアルゴを利用することは難しいということだった。中学校は、小野南中学校は既にアルゴを利用しており、河合中学校もアルゴ利用が可能、小野中学校は大規模なのでアルゴ利用は難しいが、プールが比較的新しいので自校のプールで行える。そうすると、後は旭丘中学校をどうするかという話になる。小学校は、今のように各校でするのか、拠点校へ集約するのか、小中を含めた新プールを建設するか、絞ったらこの選択肢しかないと考える。(教育長)

A:拠点校を決めてそこに行けばいいかという話だが、令和3年度に小野南中学校が河合中学校に行き行ってプール授業を行ったが、結局受け入れの関係で先生方の負担が大きく、他にも色々な不満が出た。実際にやってみると様々な問題が出てきたので、やはりそれぞれの学校にプールがあることには、1つの理由があるのではないかとこの考え方もできる。(事務局)

Q:学校のプールのレーンの数や長さについては何か規定があるのか。(教育委員)

A:特に規定はなく、各学校で違っている。縦は基本的に25mだが、横は例えば小野小学校だと1,000人規模だった時代があるので9コースあるなど、学校規模による。(事務局)

Q:もし新しいプールを建てるとしても、今はそれほど大きなものを作る必要はないですね。(教育委員)

A:低学年用と高学年用の水深のプールがあるので、2つ作るか、1つのプールで水深を分けて作る必要がある。(事務局)

A:低学年用のプールは昔の身長基準で作られているので、今の子どもたちにとっては浅すぎるという問題もある。(事務局)

Q:新しいプールを建てたり、アルゴを利用するにしても、今ある学校のプールを壊す費用も必要になってくるのか。(教育委員)

A:古い建物はアスベストを含有しているので、アスベスト対策を完全にして撤去するとなるとかなりのコストがかかる。(事務局)

Q:アルゴのプールはまだ何年も利用できるものなのか。(教育委員)

A:建てたのは平成4年で、一昨年、昨年と大規模改修工事を行っているので、あと15年くらいは利用可能と考えている。また、体育施設なので不具合があれば適宜メンテナンスを行っていること、屋内プールなので屋外型よりは老朽化が早くないということから、学校プールより長く利用できると考えられる(事務局)

Q:実習の時間を減らして、その分を座学でカバーするという事は可能なのか。(教育委員)

A:その良し悪しは別として、ルール上は可能である。(事務局)

Q:夏休みは部活等いろいろと予定があると思うが、できなかったカリキュラムは夏休みを使って行うという方法もあるのでは。(教育委員)

Q:小学校の時に、水泳の授業で合格できなかったら夏休みに何日か小学校に行って泳ぐというのがありましたね。(教育委員)

Q:今はそういうことはしていないのか。(教育委員)

A:業務改善の動きがあってから減った。以前は市内で小学生の水泳大会があり、それに向けた練習と一緒に泳ぎが苦手な子どもに対する指導を行っていたが、先生方にとっては午前中ずっとプールに入ることになり体力的に厳しいという話があったので、そこが難点である。(事務局)

- ・ 広域ゴミ処理施設を新たに作る時に、その排熱を利用したプールを作るという話も出ているので、そういったものも加味はできるだろう。ただ、それもかなり先のことになるし、絶対に建設すると決まっているわけではないので、本当に難しい問題である。(教育長)
- ・ 課題は色々あるが、アルゴの利用と拠点校へ集約するという案が一番現実的ではないか。ただ、それにしたとしても課題は出てくるだろう。(教育委員)

Q:他市の学校では、低学年はプールに入っていないと聞いた。詳しいことは聞いていないが、水深が浅いプールがないので低学年は水泳を行わず、高学年だけプールに入っているという形らしい。そのように、施設がないので高学年からプールをするという考え方もできるのではないか。(教育委員)

Q:自分の身を守るという観点からいうと、小さい子の方が溺れやすいので、低学年の方がプール授業は必要なのではないか。(教育委員)

A:その観点からいうと、足がつかない状態の体験をどれだけ積めるかということが大切。例えば、運河の多い国では、足がつかないときにパニックを起こさないようなトレーニングをどれくらい積むかということが重要で、日本のように速く泳げることに価値があるわけではない。あくまでもサバイバルスイングという命を守ることが前提なので、水泳のカリキュラムが日本とは全く違う。水泳の特性からすると自転車と同じなので、一度泳げるようになると、暫く泳いでいなくてもある程度泳ぐことができる。そこに先程の命を守るという視点が入ると、浮くことが重要であり、速く泳げなくても良いということになる。小学校だけしっかりと水泳授業を行い、中学校は選択制や時間数を減らすということが必要かもしれない。(事務局)

Q:カリキュラムについては、県に相談せずに小野市で決めてしまっているものなのか。(教育委員)

A:基本的には学校で決める。ただ、文部科学省の学習指導要領がどちらかという競泳よりからスタートして作成されているので、どうしても競泳寄りの授業になってしまう。スイミングスクールも基本的にはその流れで出来ている。(事務局)

- ・ 次回は、どれくらいの費用になるか目安をしっかりと出さないと、話が堂々巡りになってしまうので、目安を出した上で何を基準に考えていくか協議する必要がある。1つ目はコスト、2つ目は生徒や教員の負担という面、3つ目は教育課程との整合がどうなのかというカリキュラムのこと、4つ目は安全性について。これらの4つの視点で、比較しながら議論していくのはどうか。(事務局)
- ・ 小野中学校のプールは、今はまだ新しいのであと40年ぐらいは持つのかもしれないが、今さえ良ければいいというわけではなく今後も必要になってくるので、先々のことも視野に入れながら考えることも必要ではないか。(教育委員)
- ・ 何を最優先で考えるかということが大切で、それ以外については努力や工夫が必要ということになってくる。(教育委員)
- ・ 譲れないものがきっとあると思うので、それは捨てないようにして検討していきたい。(教育委員)

4 報告事項

- ・ 令和5年度主要事業の進捗状況の説明及び教育委員からの意見聴取

■ [学校教育課関連]

①第Ⅲ期教育振興計画の具現化【教育課程管理】

(進捗状況)

- ・ 新たな幼稚園の在り方検討委員会ということで、新しい幼稚園のソフト面

について検討している。幼稚園の募集の内容がその後の幼稚園の統合に関わってくるので、次の募集をどうするかというところを中心に進めている。また、来年度から合同幼稚園になるので、それも含めてどんな内容にするか、幼稚園の先生と一緒に検討を進めている

- ・第12回兵庫教育大学連携「サイエンス祭」を7月28日・29日に行った。コロナ後初めて以前と同じような形で開催し、非常に多くの子どもたちが来て、賑わいのあるサイエンス祭りとなった。
- ・GIGAスクールのオンライン授業支援の研修会が、7月から始まっている。
- ・来年度の特別支援学級の編制のもとになる、就学前の子どもたちの個別相談会を行っている。保護者や医師の意見、客観的な資料をもって、9月に市教育支援委員会を行い、特別支援学級の学級編制に繋げていく。

(今後の予定)

- ・修学旅行が9月と10月、自然学校が8月28日から順次実施される。コロナは下火になっているが、コロナ対策は昨年度と同じような形で取り組む。

②「チーム学校」を踏まえた学校組織マネジメントの強化とリスクマネジメント【危機管理】

(進捗状況)

- ・『報・連・相』及び『4号報告(いじめ・問題行動等)』で報告
- ・就学援助事務がほぼ完了しており、1学期分の算定を終えて、支払い手続きを進めている。小学校は全児童の約13%、中学校は全生徒の約12%、市全体で約13%の児童生徒が就学援助を受けている。

③人材育成と働き方改革【人的管理】

(進捗管理)

- ・採用試験を受ける前の臨時講師の研修会を7月27日に行った。一次試験が終わり、現在二次試験に入っている。
- ・デジタル採点システムの効果検証を行った。全体の超過勤務時間についてはあまり減らなかった。採点にかかる時間は短縮されたが、余った時間を他の事に使っていたのではないかと推測する。1枚ごとにかかる時間はかなり短縮しており、1枚5.96分だったものが1.22分で採点できるようになったので、非常に効果があるといえる。メリットとしては、採点ミスが激減した、AI採点により時間短縮になった、解答を比較できるので、統一した採点ができるようになったということが挙げられている。デメリットとしては、問題設定に時間がかかることだが、慣れれば支障はなくな

るということだった。それから、文章問題や作図の問題は今まで通りのテストが必要であること、返却時に再度印刷する必要があり、印刷コストがかさむことが課題である。また、AI採点に任せきりになってしまう可能性があるので、再度先生の手でチェックする必要がある。デメリットもあるが、全体的に見てメリットのほうが多いという結果だった。

近隣市町のデジタル採点システムの導入状況については、多くの市町が導入する方向で進んでいる。小野市としても、導入する方向で検討する必要がある。様々なソフトウェアがあるので、先生方にとって本当の業務改善に繋がるようなものを選んでいきたい。現在、小野中学校と旭丘中学校が同じソフトウェアを使っており、小野南中学校は別のものを使っている。河合中学校もまた違うソフトウェアのテスト版を12月末まで使えることになったので、結果を集約して、どれが良いか検討していきたい。

- ・夏休みのサービス管理ということで、市民の方々が理解できるような休暇の取り方や過ごし方をするよう依頼している。

④学校教育課情報

1 市の取組予定

- ・7月28日・29日 兵庫教育大学・小野市連携 サイエンス祭(エクラ)

2 学校の取組

○小・中・特別支援学校 修学旅行

- ・9月5日(火)～9月7日(木):河合中 東京方面
- ・9月14日(木)～9月15日(金):河合小 奈良・京都方面
- ・10月3日(火)～10月4日(水):市場小・下東条小
奈良・京都方面
- ・10月4日(水)～10月5日(木):小野東小 奈良・京都方面
- ・10月10日(火)～10月11日(水):来住小・大部小
奈良・京都方面
- ・10月11日(水)～10月12日(木):小野小・中番小
奈良・京都方面

○小学校自然学校

- ・8月28日(月)～9月1日(金):小野東小(南但馬)
- ・9月11日(月)～9月15日(金):中番小・下東条小(南但馬)
市場小(嬉野台)
- ・9月25日(月)～9月29日(金):小野小(嬉野台)
来住小(国立淡路)

- ・10月 2日（月）～10月 6日（金）：大部小（嬉野台）
- ・11月13日（月）～11月17日（金）：河合小（南但馬）

3 学校の状況等

- 7月の4号報告2件(いじめ1件)
- 7月の不登校の状況
 - ・小学校15名（前年15名）
 - ・中学校78名（前年52名） 合計93名（前年67名）
 - ・前年度に比べ30名弱増加している。どう対応していくのか検討が必要。

4 全国学力学習状況調査の結果

全国よりも非常に良い状況だった。英語については、若干全国比より劣っている結果となった。本市の特徴的な結果として、自分にはよいところがある、夢や目標を持っている、といった心に関係する部分については、ここ数年全国比よりもかなり高い数値になっている。この部分が小野市の夢と希望の教育の大きな効果だと捉えている。

⑤不登校児童生徒が相談・指導を受ける民間施設についてのガイドライン

学校だけで解決せずに、様々な関係機関と連携しながら、子どもたちの学びの場を保障するという動きになってきている。文部科学省が誰1人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策としてココロプランというものを作っており、兵庫県も、県のガイドラインを数年前に作っている。それを受けて、各市町でも民間施設の連携についてある一定のラインを示すガイドラインを作る必要があるということで、県のガイドラインを参考にしながら、小野市のガイドラインを定める。指導要録上の出席扱いが認められるには、学校の教育課程と同じものがあるかどうか、子どもたちの社会的自立を支援するような施設であるかどうか、子どもの学校復帰を一緒に支えてくれる施設であるかどうか、というところが大きなポイントになる。その上で、保護者や学校と十分連携や協力関係が築ける施設であるか、子どもが通うことにたえうる施設かどうか、それから教育課程の中での位置づけがあるか、そのあたりを学校長と教育委員会の職員が施設を訪問する中で、保護者とも連携しながら協議を行い、要件を満たすと評価できる場合は出席扱いを認めるというのが、このガイドラインの大きな流れになる。

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：デジタル採点について、この前多文化共生の方でJICAに勉強に行かせていただいたときに、たつの市の中学校の先生とデジタル採点の話になり、たつの市は小学校から全てデジタル採点にしていると言われていて、そういう時代に

なってきたのだと感じた。

全国学力学習状況調査の英語について、若干全国比より劣っているということだが、どのような課題があると思われるか。(教育委員)

A: 今回の英語のテストでいうと、問題が非常に難しかった。英語の話す分野の回答が8月21日に解禁され、現在担当を中心に分析しているところだが、非常に問題が難しいということから、全国的に本当の子どもたちの力が測れていないテストではないかという意見が多く、そのため良くない方に結果が出てしまった可能性があると考えられる。また、コロナの影響もあり会話ができない状況が長かったので、話す・聞くという部分が悪い方に振れたのではないかと考えている。それでもしっかりと力がついている子どもたちは程度点数を取っているので、英語については再度学習をしていく必要がある。それから、ALTといった英語ネイティブの人と話をすることは、子どもたちにとっては英語の勉強になるだけではなく、他文化を知る機会になる等、プラスアルファのところがたくさんあるので、そういった部分は必要であると報告している。これからどうやって効果を上げるかということだが、ALTをいかに効果的に使うか、授業の中身を再度検討して、授業改善を図っていく必要があると分析している。非常に良い成績を収めている学校もあるので、その取り組みを参考にしながら、授業改善を図り学習効果を上げていきたい。(事務局)

Q: 就学援助について、全体の13%が就学援助を受けているということで、全体的に見ても多いという印象だが、他市と比べたら多いのか、それとも少ないのか。(教育委員)

A: 他市比較はしていないので、また調べてみる。(事務局)

A: 小野市だけが特別多いということではなく、全国的にあまりかわらない。(教育長)

A: 夏休みに子ども日本語教室を開催して、外国の子どもたちを中心に勉強した。働いている保護者が多いので、送迎の部分が1番課題だったが、今回初めて社協のバスをお借りした。小野高校生と小野工業高校生には昼食を作っていたいたり、教育に関心を持っている高校生・大学生がたくさん募集してくれて、大体1対1で勉強することができた。学習の積み重ねができずに、中学校から落ち込み、高校に入れずに就職するという可能性を持っており、生活保護や就学援助を受ける立場になるということが多いので、やはり小・中学校の間にこうしてサポートする必要があると、就学援助の数値を見て感じた。(教育委員)

Q: 修学旅行について、もしコロナに感染して行けなくなった場合、以前と同じように市が負担してくれるのか。(教育委員)

A: 学校全体でキャンセルしなければならないようなことが起きた場合には、キャ

ンセル料を市で負担するという事は、了解を得ている。ただ、昨年度とは違い、コロナが2類から5類に変わり、インフルエンザと同じ扱いになるので、個人の分については負担できない。それから、看護師や養護教諭をもう1人増員した方がいいという学校については、その部分も市が負担することになっている。(事務局)

Q: 就学個別相談は、保護者から申し込むのではなく、気になる子がいたら案内するといった形なのか。(教育委員)

A: 16ヶ年計画の中の1つで、保育園や幼稚園との連携ということで、社会福祉課や健康増進課とも連携して、各園に訪問している。子どもたちの様子を見たり、先生の見立てで気になる子がいたら、園の先生方を中心に保護者に声をかけていただいて、今回の就学相談に繋げる。就学相談に来ていただいたら北播磨医療センターの小児科医と保護者と面談を行い、今後どのような就学をすればその子にとって一番良いのか一緒に考えていく。そこである一定の合意を得た状況で、教育支援会で判定を出して、再度保護者の合意を得たら学級編成に繋げていくという形になる。(事務局)

Q: 幼稚園から外国籍の子どもたちのことで一緒に相談して、今度一緒に入学する前に小学校を訪問するのだが、保育園からも一緒に関わって欲しいという連絡があった。幼稚園だけでなく、保育園の方も一緒に関わっていて良いことだと思う。(教育委員)

A: 教育支援会は例えば外国籍の子どもで支援が必要な子であればこの相談にかかるが、多文化共生の部分で支援を必要とする場合は教育相談という形で、保育園の先生や学校の関係者、必要であれば社会福祉課も一緒に入りながら相談していただくような仕組みがある。基本的には特別支援の子も多文化の子も情報共有した上で学びが保証できるような形にしていかなければならないので、相談業務については夏休みにしっかり受けて、必要であれば保育園や幼稚園に訪問させていただき確認するといったことを行っている。(事務局)

Q: 夏休みに行くことには何か意味があるのか。(教育委員)

A: 夏休みの方が先生方が動きやすい。ただ、2学期でも時間を作って訪問する場合もある。(事務局)

Q: 学校以外の居場所として、現在は適応教室とフリースクールの2つが小野市にはありますよね。フリースクールに対して、事前に話をして、何かチェックしたりされているのか。(教育委員)

A: 適応教室は基本的には出席扱いをしているので、最初に適応教室を勧める。ただ、適応教室も行きにくいという子どもがいるときには、フリースクールが次の選択肢として出てくる。そこへ行きたいということであれば、情報収集しつ

つ、学校長と市教育委員会も施設を訪問し状況確認を行う。最終的には保護者や施設の方と、先ほどお話したガイドラインに沿ったことを中心に話をして、大丈夫だということであれば出席扱いを認めていくという形になる。(事務局)

Q:フリースクールについて、まだあまり認知はされていないのか。(教育委員)

A:不登校の子どもの保護者は、フリースクールについてはある程度わかっている。また、学校の不登校の担当も認知はしており、出席扱いとまではいっていないが、部分的に通っている子どもが何人いるかということは学校でも把握している。(事務局)

Q:部分的に通っている子どもがいる施設との連携はしているのか。(教育委員)

A:情報を共有する必要があるので連携をとっている。2週間に1回行くなど、そこへ通うというところまでいっていない子どもたちもたくさんおり、そのあたりが不登校の子どもたちのこころの揺れという難しい部分ではないかと考える。適応教室は現在通っている子どもたちも多く、そこから学校復帰している子どもも多くいるので、適応教室も大事にしつつ、フリースクールも視野に入れていく。(事務局)

Q:自転車で行けるかどうかといった距離的なことから、近くの施設に行くという選択肢をされる子どもたちもいるのではないか。(教育委員)

A:今回の出席を認めるかどうかという対象は小野市内の施設だけでなく、市外も対象になる。(教育長)

- ・ 前回の定例教育委員会でルビがふられている教科書があるかという質問があったが、教科書自体にルビがふられているものはない。デジタル教科書にはルビがふられているが、小野市では国語のデジタル教科書は導入していない。現在は先生方が必要に応じて書いて対応している。それから、特別支援で使用する星本について、小野特別支援学校でも必要に応じて使用している。星本は検定教科書ではなく、一般図書の扱いなので、特別支援学校では、子どもの実態や学ばせたい内容に応じて星本の中で適当なものがあれば、それを使って学習している。教科書に最大4つの星がついており、3つまでが小学校部で活用するもので、4つは中学校部で活用する。(事務局)

■〔教育総務課関連〕

①新幼稚園整備事業

(進捗状況)

- ・ 現在、設計業務を進めており、進捗率は7月末で65%。

(今後の予定)

- ・ 8月29日に、幼稚園の先生方と駐車場等の周辺整備について打ち合わせを行う予定。

- ・来年度の合同幼稚園に向けて、小野東幼稚園職員室改修工事を実施し、8月22日に工事が完了した。
- ・新しい幼稚園に向けて、預かり保育や合同幼稚園等のソフト面の打ち合わせも併せて進めていく。

②学校施設長寿命化対策事業（旭丘中学校）

（進捗状況）

- ・旭丘中学校仮設校舎賃貸借契約について、進捗率が7月末で80%。8月23日に仮設校舎が完成し、中学校に引き渡しを行った。
- ・8月24日から26日の3日間で引っ越しを行い、8月29日から仮設校舎で2学期がスタートする。
- ・校舎の建設工事については、7月末現在は着手していないため進捗率は0%。仮設校舎で授業が始まり校舎が空くので、9月から工事に着手していく。

③学校施設バリアフリー化整備事業

（進捗状況）

- ・現在、小野小学校エレベーター設置工事の設計業務を進めており、進捗率は7月末現在で30%。来年度の工事に向けて、早い段階で工事に着手できるように準備を進めている。

④教育総務課情報

1 ICT教育推進事業

○校務用パソコン購入設置（140台）

令和5年5月17日入札落札 オージヤ商事(株)

令和5年5月19日～9月30日 18,645,000円

→教職員用のパソコン約380台（H28購入）について、3年かけて計画的に更新を行う。令和5年度は140台を購入する。8/8に納品（更新）完了。

2 学校施設工事等関係

○市場小学校受水槽及び消火水槽更新工事 設計・監理業務委託

令和5年5月17日入札落札 (株)小西設計

令和5年5月19日～令和6年3月20日 7,700,000円

→設置後約37年が経過し、老朽化進んでいるため更新を行う。6月30日に現地調査を実施し、受水槽の設置位置を決定。

○河合小学校・市場小学校空調更新工事 設計業務委託

令和5年6月28日随意契約 (株)小野設計

令和5年6月28日～令和6年3月20日 4,895,000円

→学校の空調は平成23年度に一齐に整備され、12年が経過し、故障等の不具合が多く、部品の生産も終了しているため修理できない状態であることから、順次更新を行う。

○小野中学校柔道場床改修工事

令和5年6月6日入札落札 (有)ヤマモト工務店

令和5年6月12日～令和5年9月25日 13,948,000円

→柔道場の床組み(束)が老朽化により破損し、床にたわみが生じており、授業や部活動に支障をきたしているため、柔道場の床組み及び畳を更新する。

○小野中学校、小野特別支援学校ポンプ更新工事

令和5年8月8日入札落札 (株)エアコンサービス

令和5年8月15日～令和6年3月15日 10,813,000円

→小野中学校上水ポンプ及び小野特別支援学校消火ポンプについて、老朽化等が進んでいるため更新を行う。

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q:学校に行ったときにパソコン教室が使われていない状態になっているのを見かけるが、今後どうしていくのか。(教育委員)

A:小学校のパソコン教室については、Chromebookが導入されたため現在はパソコン教室を使用していないということで、廃止に向けた準備を進めている。中学校については、一部まだパソコン教室を使用している学校があるため、残す方向である。(事務局)

Q:仮設校舎がグラウンドに建っているが、旭丘中学校の体育祭はどうなるのか。(教育委員)

A:体育祭は予定通り開催する。仮設校舎でグラウンドが狭くなるが工夫しながら行う。(事務局)

■【いきいき社会創造課関連】

①小野市文化財保存活用地域計画策定事業

(進捗状況)

- ・文化庁担当者の現地調査が7月26日に行われた。計画素案について修正指示があったので、修正を行っている。
- ・修正した内容について、8月4日に実施した第6回地域計画協議会におい

て検討を行った。細かな修正はあったが、概ね原案で了承を得た。修正については、好古館と協議会会長・副会長確認の上、国に申請を行う。

(今後の予定)

- ・協議会の指摘事項を修正の上、8月末に文化庁へ提出する予定。提出後、修正指示が入るので修正を行い、認定申請を11月末に提出する予定。

②コミュニティセンター事業（地域づくり協議会、特色ある取組み等）

(進捗状況)

- ・おの：七夕箏コンサートを7月2日に開催。参加者は130人。
- ・かわい：安全安心セミナーを7月25日に開催。参加者は35人。
- ・きすみの：三世代交流アジャタ大会を7月29日に開催。参加者は100人・13チーム。
- ・おおべ：おおべ未来塾②「星の観察会」を7月22日に開催。参加者は親子20組・40人。

(今後の予定)

- ・きすみの：コスモス種まきを8月19日に開催する。
- ・いちば：買い物支援事業連絡会を8月8日に開催する。
- ・全館：小中学生を対象に、サマースクールを7月26日～8月25日に開催する。

③いきいき社会創造課情報

1 事業報告

[いきいき社会創造係]

○小野市名誉市民 馬場あき子さんの映画上映

タイトル：『幾春かけて老いゆかん 歌人 馬場あき子の日々』

上映日：7月29日（土） 1回目：10:00～、2回目：13:30～

場所：小野市うるおい交流館エクラ エクラホール

来場者数：147名（1回目：73名、2回目：74名）

[図書館]

○夏休み宿題応援展示コーナーの設置

期間：7月20日（木）～8月31日（木）

内容：小学生を対象に、読書感想文におすすめの本をジャンル・学年ごとにカウンター前に設置。また、自由研究アイデアカードを児童展示コーナーに設置。さらに、カウンター前に、トライやる・ウィークの中学生が作成したPOPとおすすめ本と職員が作成した工作の見本を展示。

[好古館]

○企画展「そろばん群像－神内信夫写真展－」

期 間：9月24日(日)まで

内 容：そろばん製造に携わる人びとの写真を撮り続けている神内信夫氏の写真を通して、そろばん製造者の思いを感じ、そろばんの良さを見直す機会とする。

会 場：小野市立好古館 2階展示室

入館者：888人(7月末)

[コミセン]

○第1回おの歴史探訪講座(コミセンおの分館市民企画講座)

目 的：市民が小野の祭りの歴史とその魅力を学ぶことで、伝え、誇りの持てるまちづくりを推進する。

日 時：7月26日(水) 10:00～11:30

場 所：コミセンおの分館「よって吉蔵」

講演内容：北播磨の大祭と太鼓屋台の起源

講 師：小野市立好古館 館長 石野 茂三

受講者数：33人

○R5年度第1回下東条地区グラウンドゴルフ大会(下東条地区地域づくり協議会)

目 的：スポーツ行事を通じた地域高齢者の交流、仲間づくり

日 時：7月5日(水) 9:00～12:00

場 所：こだまの森

内 容：グラウンドゴルフ

参加者数：105人・21チーム(対象は高齢者)

優勝団体：高山町チーム

2 今後の予定

[いきいき社会創造係]

○小野市文芸大会 地域版「小野市短歌フォーラム」

日 時：9月16日(土) 13:00～

場 所：小野市伝統産業会館 第1・2研修室

選 者：小林幹也(「玲瓏」編集委員、近畿大学文芸部講師)

応募数：188首(前回：217首)

[図書館]

○初任者研修・社会体験研修受入れ（図書館）

日 程：8月8日（火）

対 象：小野中学校教諭1名、小野特別支援学校教諭1名 計2名

実習内容：図書館業務（カウンター体験、返本、資料修理・装備など）

○県立小野高等学校・勤労体験学習（インターンシップ）受入れ（図書館）

日 程：8月16日（水）～18日（金）（3日間）

対 象：小野高校普通科2年生 1名

実習内容：図書館業務（カウンター体験、返本、資料修理・装備など）

○小野市立小野特別支援学校・夏季親子職場実習受入れ（図書館）

日 程：8月21日（月）

対 象：児童1名 保護者を含む計2名

実習内容：図書館業務（カウンター体験、返本、資料修理・装備など）

〔コミセン〕

○市場地区三世代ふれあい囲碁ボール大会（市場地区地域づくり協議会）

目 的：簡易なスポーツ行事を通じた地域住民の世代間交流

日 時：8月26日（土）9：00～

場 所：匠台公園体育館 おのアクト

○第45回下東条地区夏まつり（下東条地区地域づくり協議会）

目 的：盆踊り行事を通じた地域の賑わいづくりと地域住民の交流

日 時：8月5日（土）19：00～21：00

場 所：市民研修センター運動場

内 容：地域住民のほか地域の保育園児などの参加による盆踊りのプログラムを中心とした夏まつりを4年ぶりに開催した。

来場者数：約3,000人

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：コロナが5類になって、また活気が戻ってきた様子が事業の数でわかる。にぎやかに且つ安全対策をしながら進んでいるという感じがして、安心する内容だと思った。（教育委員）

A：コミセンについては、サマースクールの受け入れもしており、どこも好評だった。（事務局）

Q：サマースクールには子どもたちは結構こられている様子だったのか。（教育委員）

A:そうですね。コミセンかわいで行われていた読書感想文の作成等を見に行っただが、皆一生懸命に取り組まれていた。(事務局)

Q:下東条の夏まつりについて、駐車場の流れが分かりにくいと思うが、特に問題はなかったのか。(教育委員)

A:コミセン下東条の所長に聞いたところ、駐車場の誘導をする係の方が一生懸命誘導してくださって、スムーズだったと聞いている。(事務局)

Q:馬場あき子先生の映画について、見に行ったがとても良かったと感じた。馬場先生は魅力的な方なので小野市の方にもっとそれを知っていただきたい。(教育委員)

Q:市外の方がどれくらい見に来られたかチェックはしていないのか。(教育委員)

A:チェックはできていないが、馬場先生のファンの方が来られたり、市外の方も多く来られていたと思われる。(事務局)

■〔スポーツ振興課関連〕

①学校保健体育事業の推進

(進捗状況)

・令和5年度 第1回 バランスの良い朝食摂取率調査結果(6/19~23)

	保育所(14施設)	幼稚園(2園)	小学校(8校+特)	中学校(4校+特)	全体平均
朝食摂取	89.9%↓(93.0)	90.2%↓(95.7)	95.1%↓(97.3)	87.9%↓(92.3)	92.1%↓(95.2)
バランス	54.2%↓(54.7)	58.8%↓(66.0)	65.5%↓(67.1)	56.5%↓(58.2)	61.0%↓(62.6)
米飯朝食	40.4%↓(41.6)	49.0%↑(42.6)	55.3%↓(55.5)	50.2%↓(52.8)	51.4%↓(52.4)

※()内の数値は昨年度第1回調査結果 ※特:特別支援学校

- ・軒並み昨年度の数値から下がってしまっている。幼稚園の米飯朝食摂取率のみ昨年度よりも上がっている。
- ・朝食摂取率の向上推進等の地道な取り組みが、学力向上に繋がっていると啓発していきたい。
- ・結果を分析して公表するとともに、朝食の大切さを再認識していただく文書を作成する。

(今後の予定)

- ・第2回ひまわりカード(1月)でデザインの変更、睡眠調査を予定している。

②第10回小野ハーフマラソン2023

(進捗状況)

- ・ランナーの参加料のうち1人あたり200円をチャリティーという形で募

金していただき購入した車椅子を、8月7日に特別養護老人ホームぬく森に2台、小規模多機能型居宅介護事業所ふなきに1台贈呈した。

- ・現状の申込状況について、8月21日現在で3,140人の申込があった。昨年と比べて約4割増しの申込がきており、今のところ順調に申込者数が伸びているという状況。

③スポーツ振興課情報

1 学校保健体育

○教職員健康診断

日 時：8月16日（水）、24日（木）終日
場 所：小野市役所2階2-1～2-4会議室

2 社会体育

○第21回小野市ひまわり杯 少年野球大会

日 程：7月30日（日）、8月5日（土）、8月6日（日）
場 所：大池総合運動公園野球場・榊公園球場・河合運動広場

3 今後の予定

○ソフトバレーボール大会 inONNO

日 時：9月17日（日） 9時00分開会
場 所：小野市総合体育館（アルゴ）アリーナ

○小野市内中学校体育祭・幼稚園運動会

小野中学校・・・9月 9日（土）
小野南中学校・・・9月 9日（土）
旭丘中学校・・・9月 9日（土）
わか松幼稚園・・・9月30日（土）
小野東幼稚園・・・9月30日（土）

○小野市中学校新人体育大会

日 時：9月23日（祝・土）予備日：9月24日（日）、9月30日（土）
※陸上競技は井上記念小野市陸上競技大会と兼ねて開催
場 所：アルゴ、アクト、アレオ、小野中学校等（小野市内公共施設）

○第50回小野市小学生陸上競技大会（兼井上記念小野市陸上競技大会）

日 時：10月1日（日）9時00分開会
場 所：小野希望の丘陸上競技場

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q: 中学校新人体育大会について、旭丘中学校と河合中学校はサッカーについては合同チームで出場するのか。また、この2校は普段から一緒に練習をしているのか。(事務局)

A: 合同チームで出場する。夏休み中も何回か合同練習があり、練習試合も組まれていたようだ。偶然ではあるが旭丘中学校と河合中学校のホームのユニフォームの色が結構似ているので、それぞれ元のユニフォームのまま、合同チームで試合をしている。ただ、今のところは練習試合なので、リーグ戦が始まったら今のユニフォームのままでは許可が出るのかはわからない。(教育委員)

Q: 小野市で合同チームができるのは初めてですね。(事務局)

A: 初めてです。河合中学校が9人なので、河合中学校だけではできないということで依頼があった。旭丘中学校は11人なので、独自でできなくはないが、どうしても体調不良や怪我があった場合、試合ができなくなってしまうということで、合同で20人というチームで決定した。(教育委員)

Q: 保護者の方からはどのようなご意見があったのか。拒否的な反応というのはあまりなかったのか。(事務局)

A: 先生から懇談会のときに説明があり、7・8年生の保護者の方に意見をまとめて教えてほしいということだった。同じ時期に子どもたちにも先生から尋ねていたようだった。保護者からは、8年生はユニフォームをすでに買っているので、それをそのまま使えるのかという質問は出ていたが、拒否的な反応というのは特になかった。今日も試合があったので見に行ってきたのだが、仲がいいそうで、9人と11人なので割と均等なようで、どちらかに偏っているようなことはないようだった。(教育委員)

Q: 合同練習はどちらの学校で行っているのか。(事務局)

A: 旭丘中学校では十分にコートが取れないので河合中学校で行うことが多い。(教育委員)

- ・ おの祭で大勢の方が市役所周辺に来られていたときに、エクラにハーフマラソンの募集についての懸垂幕が上がっていたので、良いPRになったのではないかと。(教育委員)

- ・ ひまわりカードと関係することで、この間、人権教育研究集会で、スマホ時代の子どもたちのためにということで講演会があった。その中で、いじめをする子どもたちの特徴として、イライラしやすい、勉強に自信がないということがあげられていたが、朝食を食べていない子が多いということも特徴としてあげられていた。家庭で安心できていない、また、朝食を食べているかどうかというところに保護者の関心が薄いのではと感じたので、やはり朝食は大切だと考える。(教育委員)

5 次回定例教育委員会予定

令和5年9月20日(水) 午後1時30分 4階会議室4-1

6 閉会あいさつ 教育長